

道徳科学習指導案

指導者

1 日 時 令和6年12月 4日（水） 5校時

2 学 年 第5学年（14名）

3 主題名 「親切的思い」〔B 親切、思いやり〕

4 ねらい

周りに誤解されている中での親切的行動の価値について話し合うことを通して、周りにわかってもらえなくても相手のことを考えることの大切さについて考えを深め、思いやりの心をもって親的にしようとする心情を育てる。

5 教材名 「くずれ落ちたダンボール箱」
（「小学道徳 生きる力5」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目〔B 親切、思いやり〕「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親的にすること。」に基づくものである。これは、第1学年及び第2学年の「身近にいる人に温かい心で接し、親的にすること。」、第3学年及び第4学年の「相手のことを思いやり、進んで親的にすること。」から繋がるものである。

思いやりの心を持ち、相手の立場に立って誰に対しても親的にすることは、よりよい人間関係を築くために大切なことである。しかし、おせっかいと思われないか考えてためらったり、思いやりを行動に移すのに勇気が出なかったりして、困っている人に気付いても助けることができないこともある。特に、知らない人など人間関係ができていない相手に対しては、親切的行動をすることにためらいや戸惑いが生じやすい。そういった難しさを越え、相手の立場や状況を考慮した上で、誰に対しても相手を思いやり、その心を行動に移すことによって安心して生活できる社会をつくろうとしていくことの大切さを考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、困っているおばあさんに対する「わたし」達の行動から、相手のためになることを進んで行う親切について考えることができる教材である。ショッピングセンターで孫が段ボール箱を崩して困っているおばあさんの代わりに「わたし」と友子は段ボール箱を整理する。しかし、事情を知らない店員に自分達が崩したと誤解され、注意されてしまう。店員が去った後、戻ってきたおばあさんにお礼を言われるが、注意されたことは言わなかった。周りに分かってもらえなくても、初めて会ったおばあさんに対して、親切的行動を進んで行った「わたし」達の姿から、相手のためになることを考えて進んで行動することの大切さについて考えることができる。

道徳科の授業においては、登場人物の考えに寄り添ったり自分の生活を振り返ったりして、自分の考えを正直に発表することができる児童が多く、友達の考えから自分の考えを深めようとする姿も見られるため、児童の考えがつながり、学びが深まるようにファシリテートしていきたい。自分の考えを伝えることに苦手意識をもつ児童もいるので、ペアやグループでの対話場面を取り入れることで、自分の意見を伝えられるようにする。

指導に当たっては、児童が主体的に考え、友達と意見交流をすることで、道徳的価値についての考えを深められるようにしたい。そのために次の4点に留意する。

- ① 導入では、事前アンケートで聞いた「親切」の経験についての回答を発表する。全ての児童が親切は大切だと思っている反面、できていない時があるという実態から、親切な行動をするために必要なことについて考えるという課題意識をもたせる。
- ② 展開前段では、おばあさんを助けたいという2人の気持ちをとらえさせる。一方で、周りの評価によって、親切な行動に対する価値付けが自分の中で変化していることにも気づかせたい。
- ③ 中心発問では、店員さんに誤解されたままだとしても、2人の行動は価値があると言えるか話し合わせる。2人にとって親切にしたい相手はおばあさんであることに気付かせ、純粋に相手のことを思って親切な行動に移したことの価値をとらえさせたい。
- ④ 展開後段では、親切な行動をするために必要なことについて話し合わせる。誰かに認められなかったとしても相手を思いやって行動する気持ち、相手のためになるかどうか自分で考えて決断することなど、誰に対しても親切な行動をすることの大切さに気付かせ、学びを深めさせたい。

7 準備物 ・挿絵 ・テレビ

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	○留意点●評価
導入 (5分)	1 課題意識をもつ。	○アンケートの結果、親切にできていないという人もいました。理由を見てみましょう。 ・自分のことばかり考えてしまう。 ・知らない人に親切にするのは恥ずかしい。勇気がいる。 ・よけいなお世話と思われそう。	○親切にできないときの理由を共有することで、誰もが持っている弱さに共感し、課題意識をもつことができるようにする。
	親切な行動をするためには、どんな考えが必要なのだろう。		

2 「くずれ落ちただんボール箱」を読んで考え、話し合う。

○2人はどんな気持ちから、おばあさんを助けたのでしょうか。

- ・困っているから助けてあげたい。
- ・かわいそうだから何とかしたい。
- ・何でもみんな動かないのだろう。

○店員に注意された2人は、どんなことを考えていたでしょう。

- ・理由も知らないで注意するなんておかしい。
- ・わがままな行動をした男の子にも腹が立つ。
- ・せっかくいいことをしたのに注意されてくやしい。損をした。
- ・手伝わなければよかった。

【中心発問】

○もし、店員さんに誤解されたまままだとしても、2人の行動は意味があると言えますか。

- ・おばあさんが助かったことは変わらないから、意味がある。
- ・相手のために動いているから、認められなくても意味がある。
- ・誰も動いていないのに進んで親切にしたから、意味がある。
- ・誰かに気付いてもらえない親切だと意味がない。

【考えを深める発問】

○この後2人は、校長先生に事情を説明したでしょうか。

- ・する。校長先生にもほめてもらいたいから。
- ・しない。おばあさんはもう喜んでくれたから、別に他の人にそのことをいう必要はないから。
- ・しない。ほめてもらえなくても、おばあさんのためにした親切な行動の価値は変わらないから。

○純粋に相手のことを考えた2人の思いをとらえさせ、その後の気持ちと比較できるようにする。

○店員への怒りや手伝ったことへの後悔など、2人がマイナスな気持ちになっていることをとらえさせる。

○周りの評価によって、行動に対する価値付けが自分の中で変化していることをおさえ、中心発問につなげる。

○事前アンケートで「相手に気づかれないと親切にした意味がない」という回答があったことを伝える。

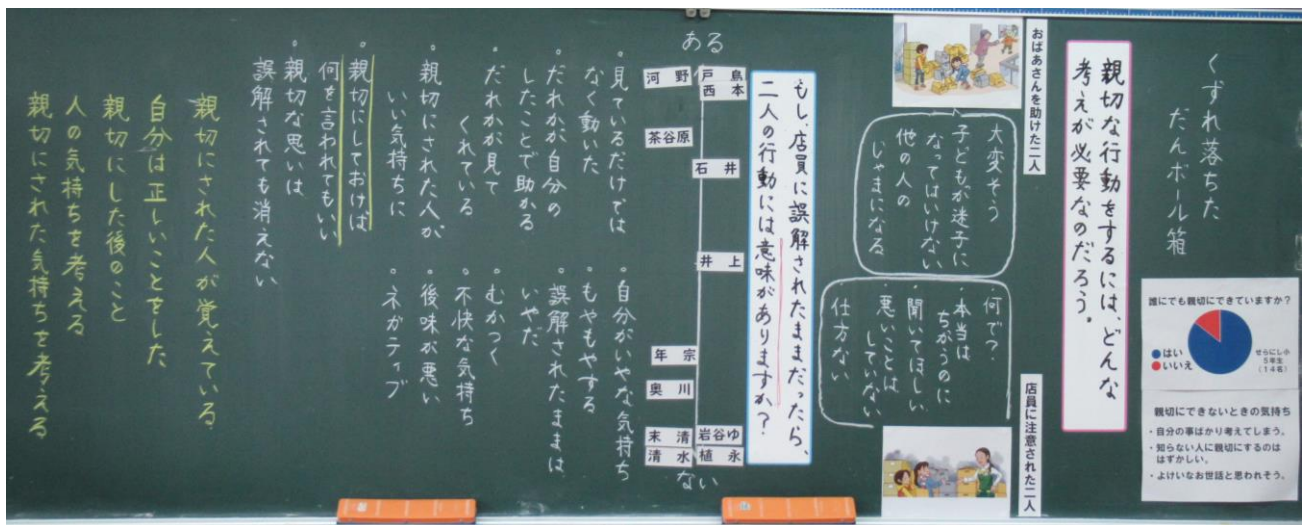
○2人が助けようと思った相手はおばあさんであり、純粋に相手のことを思って親切な行動に移したことの価値に気付かせる。

○この後の2人の行動を想像させ、校長先生に自分達がしたことを説明するか考えさせる。

○行動の根拠について話し合うことで、親切な行動についての考えを深めさせる。

展開後段 (10分)	3 自分の生活を振り返る。	○親切な行動をするためには、どんな考えが必要なのでしょう。 ・相手のことを助けたい、役に立ちたいと思う気持ち。 ・誰かにほめられたりお礼を言われたりしなくても、相手のためになることをするという強さ。 ・自分が納得して、自分が決断すること。	●相手のことを考えてしたことは親切であることに気づき、思いやりの心をもって親切にしようとしている。 (道徳ノート・発言) 【キーワード】 ・相手のことを思う ・相手のために
終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	○今日、学びが深まったことを振り返りましょう。 ・ほめられたりお礼を言われたりしなくても、相手のことを思った行動には価値があると分かった。	○新たに学んだ考えや気づきを振り返らせ、学習の深まりを実感させる。

9 板書



10 成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- 発問を精選したことで、中心発問にかける時間を十分に確保することができた。児童がじっくり考え、議論の中で意見をしっかりと伝え合うことができたため、児童の言葉を中心に授業を進めることができた。
- アンケートの「相手に気づかれないと親切にした意味がない」という回答から中心発問につなげたことで、親切について自分事として考えることができた。「例えば～」と、自分の生活と結び付けながら発言する児童も多く、生活を振り返りながら親切について考えることができた。
- 中心発問で自分の立場を示しながら理由を発表させたことで、全員が自分の意見をもって表現することができた。また、意味があるかどうかの議論が活発になって、その中で親切についての考えを広げたり深めたりすることができた。

- 2人の行動に意味があるかどうかの議論はできたが、自分にとってプラスかマイナスかの視点が強くなってしまい、意味がないと主張する児童が多かった。意味があるという意見の中に価値の高い理由が見られたので、そこに焦点をあてて対話をすればよりねらいに迫ることができた。
- 展開後段に時間をかけることができなかった。中心発問で考えを深められるような対話をして、道徳的な価値の高まりを振り返ることができるような授業構成にしていく必要がある。

11 今後に向けて

- ・ 道徳的な価値が高まりそうな発言を事前に考えておき、そこに焦点を当てて対話をしていくことでねらいに迫れるようにする。
- ・ 展開後段で学習の振り返りができるように、時間配分を工夫したり児童の対話をファシリテートしたりしていく。